

令和2年2月27日

保護者の皆様

京都市立桂徳小学校
校長 勝木 清隆

新型コロナウイルスに関連した感染症対策について

平素より、本校の教育活動に御理解と御協力をいただき、ありがとうございます。

さて、国内において新型コロナウイルスに感染した事例が相次いで報告される中、今後は感染をできる限り抑えることが重要になっております。

本校におきましても、感染予防のための対応をしておりますが、国や教育委員会からの通知等を踏まえ、御家庭におかれましても以下のことに御注意いただき、お子様に風邪の症状等が見られる場合は、学校へ御連絡をいただきますようお願いいたします。

1 感染症対策の徹底

- ・ 免疫力を高めるため、十分な睡眠、適度な運動やバランスのとれた食事を心がけるようにしてください。
- ・ 手洗いや咳エチケット等、基本的な感染症対策を徹底してください。

- 帰宅時や調理の前後、食事の前などにこまめに石鹸やアルコール消毒液などで手を洗いましょう。
- 咳などの症状がある場合は、咳やくしゃみを手で押さえると、その手で触ったものにもウイルスが付着し、ドアノブ等を介して他の方に病気をうつす可能性がありますので、マスクを着用する等、咳エチケットを行ってください。
- 持病がある方などは、公共交通機関や人混みの多い場所を避けるなど、より一層注意してください。

2 登校前の健康観察の実施等

- ・ 登校前に、発熱やせきなどの風邪の症状はないかなど、健康観察を行ってください。
- ・ **発熱等の風邪症状がみられる場合は、無理をせず、学校に連絡のうえ、登校を控えて自宅で休養させてください。**（出欠については教育委員会の通達により以下のように取り扱います。）

※1 風邪症状等で自宅休養した場合の出欠の取扱いについては、「出席停止・忌引き等の日数」として取り扱います。

（風邪症状については、発熱や呼吸器症状の有無等にかかわらず広く捉えてください。）

※2 風邪症状等はないが、感染防止のため学校を休ませたいと保護者の方の希望により欠席する場合も、「出席停止・忌引き等の日数」として取り扱います。

裏面に続く

3 相談・受診の目安

新型コロナウイルスに感染した場合、最初に現れる症状は、発熱や咳等で、普通の風邪と変わりませんが、普通の風邪よりも長引くことが特徴です。

お子様に以下の症状がある場合は、帰国者・接触者相談センター（電話 075-222-3421、土・日・祝日を含む24時間対応）に御相談ください。

- 風邪の症状や37.5℃以上の発熱が4日以上続いている（解熱剤を飲み続けなければならないときを含む）
- 強いだるさ（倦怠感）や息苦しさ（呼吸困難）がある
- ※ 基礎疾患等があるお子様は、上の状態が2日程度続く場合

4 その他

- ・ 学校においては、新型コロナウイルス感染症を理由とする差別や偏見などの人権侵害が生じないように、十分に配慮して指導しておりますので、保護者の皆様におかれましても御理解と御協力をお願いいたします。
- ・ 2月27日（木）現在、以下の行事を中止にいたしました。3月の学校だより等で、すでに行事を印刷しているものもありますので、ご注意ください。新型コロナウイルス感染症におきましては、日々状況が変化していることから、今後の状況により、改めて保護者の皆様に御協力をお願いする場合がありますので、御承知おきください。

【2月27日現在中止の教育活動・行事】

日時	中止内容	日時	中止内容
2月28日（金）	小さな巨匠展	3月4日（水）	スチューデントシティ
2月28日（金）	家庭地域教育学級	3月5日（木）	卒業遠足
2月29日（土）	支部部活交流バレー	3月7日（土）	ブラスバンド教室定期演奏会
2月29日（土）	支部部活交流バスケット		
2月29日（土）	バンドフェスティバル		

（参考）新型コロナウイルス感染症とは（京都市情報館ホームページより）

- ・ ウイルス性の風邪の一種です。発熱やのどの痛み、咳が長引くこと（1週間前後）が多く、強いだるさ（倦怠感）を訴える方が多いことが特徴です。
- ・ 感染から発症までの潜伏期間は1日から12.5日（多くは5日から6日）といわれています。
- ・ 新型コロナウイルスは飛沫感染と接触感染によりうつるといわれています。
- ・ 重症化すると肺炎となり、死亡例も確認されているので注意しましょう。特にご高齢の方や基礎疾患のある方は重症化しやすい可能性が考えられます。

※ 飛沫感染 … 感染者の飛沫（くしゃみ、咳、つばなど）と一緒にウイルスが放出され、他の方がそのウイルスを口や鼻などから吸い込んで感染します。

※ 接触感染 … 感染者がくしゃみや咳を手で押さえた後、その手で周りの物に触れるとウイルスがつきます。他の方がそれを触るとウイルスが手に付着し、その手で口や鼻を触ると粘膜から感染します。